

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	水環境創造課
職	課長
氏名	石黒 徹

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
<p>人の健康の保護や生活環境の向上及び自然環境保全の観点から、水循環が上流域から下流域へという面的な広がり及び地表水と地下水を結ぶ立体的な広がりを有することを考慮し、公共用水域における望ましい水質の維持及び良質な水資源の確保を図る必要がある。また、地球温暖化対策の観点から、汚泥等の有機性廃棄物の処理処分から発生するメタンの排出抑制を図る必要がある。</p> <p>そのために、生活排水処理施設の整備、公共用水域及び地下水の水質監視、安全・安心な飲料水の確保などに関する企画及び総合調整などの施策を講じ、本県の財産である健全な水環境の保全を目指すほか、メタンの排出抑制及び有効利用を図ることで地球温暖化防止に寄与する。</p>	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か					
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか					
<p>豊かな水環境の保全及び地球環境の保全のため、以下の目標を設定する。</p> <p>①水環境の状態を示す指標が、県内全ての公共用水域で国が定める環境基準を達成する。</p> <p>②地域の状況に応じた生活排水処理施設整備を推進する。</p> <p>③有機廃棄物由来のメタンの排出抑制及び有効利用新技術の研究により温暖化対策を推進する。</p>						
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する					
	目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
	①河川、湖沼、海域でのBOD(※1)又はCOD(※2)の環境基準の達成状況	82.5%	H21 年度	90%	H22年度(※3)	石川県新長期構想
	②市町における生活排水施設整備率(汚水処理人口普及率)	88.6%	H21 年度	90%	H22年度(※3)	石川県環境総合計画
	③二酸化炭素排出量削減	9,042千t	H20 年度	8,302千t	H22年度(※3)	石川県環境総合計画

(※1) BOD=[生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)]:河川水の水質汚濁の指標。数値が高いほど汚濁が著しい。
 (※2) COD=[化学的酸素要求量(Chemical Oxygen Demand)]:海水、湖沼水の水質汚濁の指標。数値が高いほど汚濁が著しい。
 (※3) H23以降も目標達成に向け努力



23年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①河北潟水質保全対策の検討	環境基準を達成していない閉鎖性水域(河北潟西部承水路)において、民間の水質浄化技術を用いて水質浄化効果の実証試験等を行い、実用性について検討を行う。
②低コストの生活排水処理施設整備の推進	郊外集落や中山間地域など整備が進まない地域においては、地域の状況に応じた低コストの生活排水処理施設整備を図るよう市町を指導する。
②生活排水処理施設整備に係る接続促進対策の指導	「水環境フォーラム」を開催し、生活排水処理施設の意義や接続を住民に呼びかける。市町には接続率向上のためのパンフレットを提供し、市町の接続促進活動を支援する。
③メタン排出抑制新技術の実証実験及び普及促進プログラムの策定	実証実験と並行して技術者教育のためのツール・マニュアルを作成し、研修会の実施により県内技術者の技術力向上を図る。